



世界の果て

ULTIMA THULE
〈仮称〉

1

2025 4.5 SAT — 6.15 SUN

休館日／月曜日[ただし5/5、6/9は開館]

開館時間／10:00～18:00(金曜日～20:00) *入館は閉館30分前まで

主催／東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]

企画協力／エスポー近代美術館、タピオ・ヴィルカラ ルート・ブリュック財団、ブルーシープ

**TOKYO STATION
GALLERY**

東京都千代田区丸の内1-9-1(JR東京駅 丸の内北口 改札前)

<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/> Tel. 03-3212-2485

タピオ・
ヴィルカラ



photo: Pirjo Honkasalo

TAPIO WIRKKALA

先行プレスリリース

広報に関するお問い合わせ
東京ステーションギャラリー（羽鳥）
Tel. 03-3212-2763

東京を皮切りに
国内3ヵ所で開催します！

- 1 《ウルティマ・ツォレ》（部分）1969年／ガラス
- 2 《スクエア》（部分）1950年代／合板
- 3 《リーフ・ディッシュ》1950年代／合板
- 4 《ボツレ》1967年／ガラス
- 5 《タピオ》1954年／ガラス
- 6 《シエル》1956年／合板

1～6:
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection / EMMA –
Espoo Museum of Modern Art © Ari Karttunen / EMMA



3



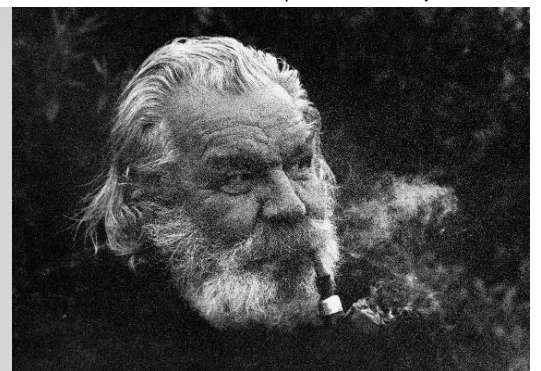
4



5



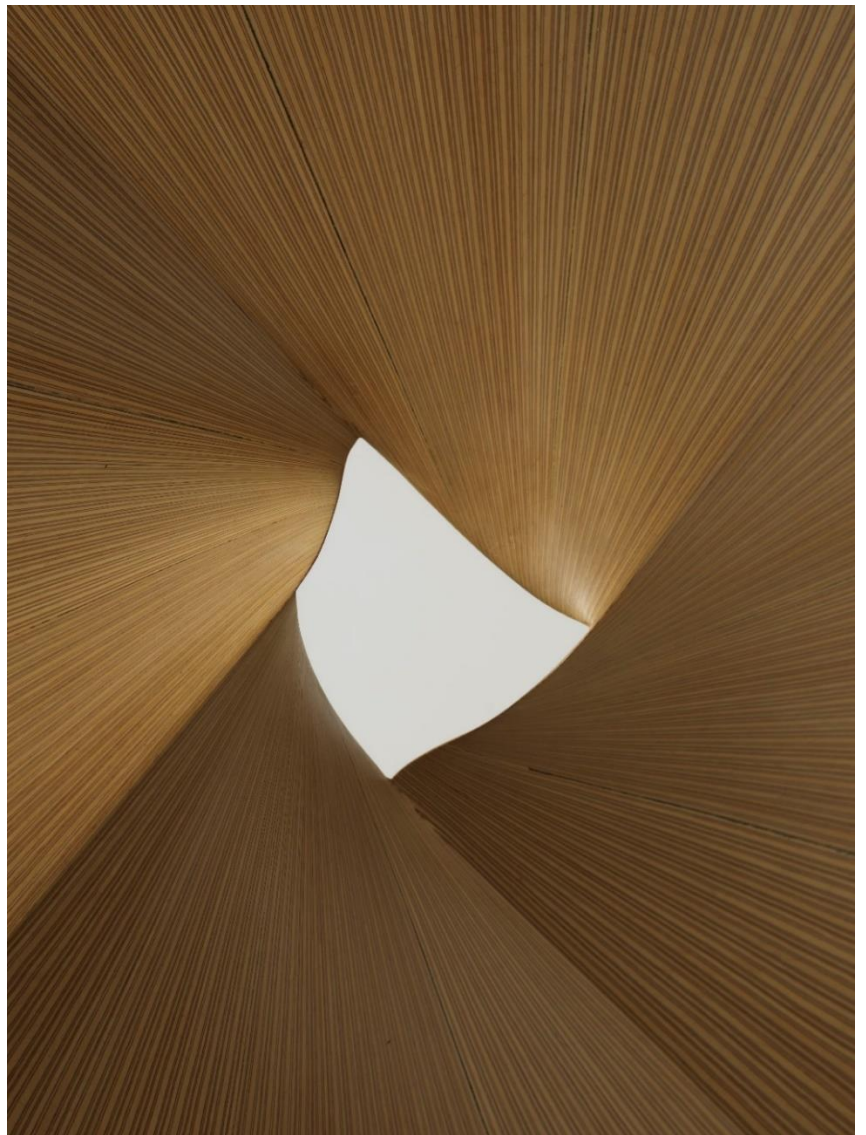
6



© Maaria Wirkkala / Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation

タピオ・ヴィルカラ
世界の果て

〈仮称〉



2

フィンランドのモダンデザイン界で圧倒的な存在感を放つタピオ・ヴィルカラ(1915-1985)を紹介する日本初の大規模個展です。1940年代後半から1950年代にかけ、イッタラ社のデザインコンペ優勝やミラノトリエンナーレの3度の入賞によってヴィルカラは一気に脚光を浴びました。セラミックアーティストの妻ルート・ブリュック同様、ラップランドの静寂を愛し、自然に宿る生命力と躍動にインスピレーションを受け、「ウルティマ・ツォレ(「世界の果ての意)」をはじめとするガラスの名品や、陶磁器、カトラリー、家具などのプロダクト、合板を用いた木のオブジェ、さらにはランドスケープアートまでその活動は広範にわたります。エスポー近代美術館の協力により、タピオ・ヴィルカラ ルート・ブリュック財団コレクションおよびカッコネンコレクションから、プロダクト、ガラスや木による彫刻、写真など約300点を選びすぐって紹介する本展は、プロダクトデザイナーとして、また、彫刻家、造形作家としてのヴィルカラの本質に迫ります。